

式 辞

本日ここに令和元年度宮崎国際大学卒業式
を挙行できますことを、大変有難く思います。

国際教養学部第二十三期生五十名、教育学
部第三期生三十一名、卒業生八十一名の皆さ
ん、ご卒業おめでとうございます。

また、これまで皆さまを育て、温かく見守
ってこられたご列席のご家族の皆さまにも、
心からのお祝いを申し上げます。

今日の佳き日を迎え、卒業生の皆さんは、
夢を抱いて入学されてからの四年間の学生生
活が思い出されているのではないでしょう
か。本学での学びを通して、見たことのない景色
を見て、見たことのない自分に出会うことが
できましたか。未見の我に大きな発見があり

ましたか。

皆さんは、令和初の卒業生となります。令和の時代は、グローバル化はさらに進み、AIの進化など、複雑化、高度化した社会へと進展していきます。また、先を見通すことが困難な時代とも言われています。そのような社会の中で、異なる文化や価値観を理解し、物事を多面的に思考し、協働しながら解決していく力が求められます。皆さんが本学で学んできたことは、まさに、これからの時代で求められることでもあります。

本日卒業され、新たな時代を担っていかれる皆さんに「今、自分にできる最善を尽くす」ということをお話します。

グローバル化の中で、時代が大きく進展していく一方、私たちは、自然災害や今回の新型コロナウイルス感染症の拡大など、災害や

苦難に遭遇することがあります。このような世界規模の出来事は、決して一人で解決することはできません。世界中の人たちが力を合わせる必要があります、同時に一人ひとりが自分に出来る事をしなければ解決には至りません。様々な困難に遭遇する時、為すべきことを探すのは、難しいと感じることもあるでしょう。そのような時、今、自分にできる事は何なのかと多面的に考え、「自分にできる最善を尽くす」ということが必要であると思います。

このことを考える時、本学の建学の精神「礼節・勤労」を思い出してください。「礼節」の精神では、自他の人間性を尊重し、自らを律し、他者の立場に立って物事を考えることを目指してきました。さらに「勤労」の精神では、心身を労して全てのことに積極的に努力することを目指してきました。「礼節・勤労」は自らの生き方に示唆を与えてくれると思います。

加えて、自分の命を大切にし、人と人や命と命が繋がっているという、人の痛みを感じることやぬくもりを大切にできる人であって欲しいと願っています。

国際教養学部の皆さんは、英語によるリベラル・アーツ教育を通して、物事の本質を見極める事が出来るよう努力してきました。

また、教育学部の皆さんは、子どもたちの心に火をつける教育の在り様を探し続けてきたと思います。さあ、これからが始まりです。

「礼節・勤労」の精神のもと、誠実に日々を積み重ねることは、人や命、ぬくもりへと繋がり、それは、世界平和へと繋がります。今、自分に出来る最善を尽くすことが、生きる豊かさに繋がることでしょう。

結びに、今日、巣立たれる卒業生の皆さん。

本学での学びを地球社会の発展に貢献されま
すことを期待しております。キャンパスソ
ング「ビー・ア・スター」にあるように、輝く
星として、志高く、素晴らしい人生を歩んで
いかれることを心から願いました。学長式辞と
します。

令和二年三月十日

宮崎国際大学学長

山下恵子